

第94号

平成22年10月13日発行

群馬県山岳連盟

〒371-0005 前橋市堀之下町494-2

女屋 等志方

TEL 027-269-4570

FAX 027-269-4583

編集発行人

群馬県山岳連盟編集委員会 岡安茂能

印刷所 朝日印刷工業(株)



平成二十二年度

群馬県山岳連盟総会報告

群馬県山岳連盟編集委員会

五月三十日(日)、群馬県連合会が前橋市上毛会館において開催された。開会に当たり、羽野順一会長が、全国的に山岳会が細くなっており景気回復もはかばかしくなっている中、群馬県連には新規に三団体の加盟があり、更には個人会員に五十名余の登録があったことは力強く、その期待に堪えて岳連の事業活動を一層充実させることができるように皆さんのご協力をお願いしたい、と挨拶した。

議事は会則により会長が進行。女屋等志事務局長が議案書に従い、平成二十一年度の事業報告を行った。即ち、総務・編集・遭難対策・登山指導・競技・海外登山・自然保護・事業・個人会員の各委員会にわたって報告。また、表彰受賞について、(社)日本山岳協会功労表彰を受けた小暮茂樹氏、(財)群馬県体育協会会長賞功

労者賞を受けた羽野順一氏、同じく山田豊氏、第三十五回上毛スポーツ賞特別賞を受けた鏑木毅氏を紹介した。更に、群馬県連加盟団体として、アイスクエストリームクラブ(代表山本泰司氏)、日本山岳写真協会両毛支部(代表橋本勝氏)、伊勢崎山岳会(代表曾根利明氏)の加入と、群馬青空山岳会の退会が承認されたことを報告した。共催・後援した事業については、「第三十回日本登山医学会学術集会2010」、「山の文化」GUNMA、「谷川岳国際交流クレーンハイキング」、谷川岳天神平「星の鑑賞会」が報告された。引き続き女屋事務局長が、収支決算報告、基金調書、競技力向上対策事業収支決算書ことについて説明を行った。これらについて適正に処理されていたと、五月十日・二十八日両日監査を行った水野金

太郎・藤沼隆男両監事から報告され、拍手多数で議案書通り承認された。また、事務局の負担軽減が図られるようにとの発言があった。次に役員改選が行われ、理事会から推薦された、羽野順一会長、角田二三男・八木原昭明副会長、水野金太郎・藤沼隆男監事、女屋等志事務局長、千明政彦事務局長が再任された。

平成二十二年度の事業計画、行事一覧表、収支予算、補助金等の内訳についても女屋事務局長から議案書に従って説明が行われ、一括審議されて、これらも議案書通り承認された。

その他では、佐藤光由理事長が、十月の第1日曜日が「ぐんま山の日」と制定されたことについて紹介し、その記念イベントへの岳連会員の参加協力を要請した。

総会終了後催された恒例の懇親

会には、岳連顧問中曾根弘文氏も出席され、大いに盛り上がり、懇親が深められた。

《群馬県山岳連盟参与》(敬称略)

小林次郎(登高会)、石井謙一郎(伊勢崎)、田中成幸(登高会)、洪澤真一(境)、中原正喜(ミヤマ)、月岡武久(星稜)、吉田茂作、田中壯佑(鵬翔)、太田忠行(独峰)、加藤藤夫(富士重工)、樋口宗平(桐生)、水野金太郎(沼田)、悴田正也(高体連)、大澤 清(高体連)、中澤安信(伊勢崎)、牛久保 拓(伊勢崎)、井下隆弘(伊勢崎)、原田惣司(倉沢)、村上泰賢(倉沢)、竹山繁男(独峰)、松永幸雄(沼田)、寺内正明(前高OB)

《平成二十二年度主要事業計画》

一、遭難防止活動の推進

谷川岳を中心とした地域の遭難防止のためのパトロールの実施、救助活動および救助隊の技術の向上のため訓練を行う。

二、国民体育大会への参加と選手強化

第六十五回国体山岳競技関東ブロック大会(群馬県)および「ゆめ半島千葉国体」(千葉県)への参加と好成績を目標とする選手強化を

平成22年度 群馬県山岳連盟役員		
会 長	羽野順一(境)	
副 会 長	角田二三男(高体連) 八木原罔明(ミヤマ)	
監 事	水野金太郎(沼田) 藤沼隆男(大間々)	
理 事 長	佐藤光由(ミヤマ)	
副 理 事 長	小林達也(高体連)	
会 計	◎長谷川勇(中之条)	
総 務 委 員 会	◎女屋等志(ミヤマ) 千明政彦(ミヤマ)	
編 集 委 員 会	◎岡安茂能(高体連) 福田純一(大間々)	
遭難対策委員会	◎小暮文彦(境) 梁瀬佐市(沼田) 町田幸男(シグマ) 清水裕千(むすび) 桜澤 斉(沼田)	
登山指導委員会	◎角田 守(前橋) 高橋守男(高体連) 星野俊充(境) 吉田直人(境)	
競 技 委 員 会	◎角田二三男(高体連) ○赤松久宇(太田) ○堀越利通(登高会) 松田龍彦 (前橋) 茂木 稔(独峰) 岩崎年伸(高体連) 斉藤 健(登高会) 柘植 求 (ウォールストリート)	
海外登山委員会	◎剣持典之(境) 田島崇行(登高会) 飯塚敏宏(ミヤマ)	
自然保護委員会	◎齋藤長作(松井田) 小泉俊夫(前橋) 三田治宣(太田) 松本 博(前高OB)	
事 業 委 員 会	◎見城正造(沼田)	
個人会員委員会	◎阿部 源(ミヤマ) 新井邦光(高崎) 山越稔雄(登高会) 長田厚実(沼田)	
特 別 会 員	野口 勤(県観光物産課長) 金子 博(県スポーツ健康課長)	
理 事	山崎孝利(吾妻) 萩原孝志(安中) 須田栄一(むすび) 永井伸之(岳想会) 串橋 卓馬(信越化学) 中島正二(水上) 原口慎太郎(太田) 剣持英司(中之条) 豊野 則夫(岩遊) 小和田和貞(ミヤマ) 野口勝広(松井田) 対比地 昇(高体連) 関 口 賢(富士重工) 山本泰司(アイスエクストリーム) 鹿田雄三(桐生) 橋本 勝(日本山岳写真協会) 植木康夫(前高OB) 石井達幸(伊勢崎)	

◎常任理事・委員長 ○常任理事・副委員長

推進する。

三、第六十五回国民体育大会関東
ブロック大会山岳競技の実施
期日 七月十七・十八日(土・日)
会場 群馬県総合スポーツセン

四、日山協創立五十周年記念行事
等への参加と各会の交流

種目 リード競技、ボルダリン
グ競技

ターサブアリーナ

日山協行事等に参加するとともに、各会との交流を深め、研修会等を通じて技術の向上、岳人としてのモラルの高揚を図る。

五、美化運動等市民運動への参加

尾瀬のゴミ持ち帰り運動および谷川岳等の美化運動等の推進に協力する。

六、岳連会報の発行
『山岳ぐんま』の発行を通じ、会員相互の結びつきと啓発を図る。

七、海外登山の実施
海外でのロッククライミングの実践と海外を目指す若手発掘のため、八月下旬から九月中旬にロッククライミングinカナダを実施する。

八、第二十六回群馬県民の日記念事業「第三十三回県民登山大会」の開催
「ぐんま山と森の月間」協賛イベントおよび「県民の日」および「ぐんま山の日」制定記念事業の一環として、一般県民から参加者を募集し、県民登山大会を開催する。
期日 十月二十四日(日)
会場 袈裟丸山

九、第七回アイスクライミング・ジャパンカップの主管理
主催 日本山岳協会
期日 平成二十三年二月上旬の土・日曜日
会場 桐の木平キャンプ場内アイスクエストリーム常設会場

十、各種研修会及び講習会の開催

登山指導委員会および遭難対策委員会が主管して、県民一般および岳連会員を対象に登山技術講習会を開催するとともに、登山指導員の資質の向上を目的として研修会を開催する。

十一、個人会員の組織と情報サービス
の提供
未組織登山者又は岳連会員以外の登山団体に対して個人会員を組織し、安全登山の普及と活動に関する情報サービスを提供する。

十二、岳連事業収入の確保
岳連の事業・事務を円滑に推進するため、平成二十三年版山岳写真カレンダーの制作頒布などの事業を行い、自主財源を確保する。

十三、関東地区山岳連盟総会の開催
期日 平成二十三年二月中旬の土・日曜日
会場 群馬県内

十四、リニューアル山田昇記念杯登山競争大会の調査
二十回開催した山田昇記念杯登山競争大会を、トレイルランニングレースにリニューアルするため、大会名称を始め、開催時期、スタート・ゴールの同一場所、武尊山一周コースとするなどを調査する。



スタートダッシュ



望月将悟選手のゴール

第二十回山田昇記念杯登山競争大会

山田昇記念杯(男子三十五歳以下の部)

望月将悟選手大会新記録で二年連続三回目のV

三枝照雄賞(男子の部)

中学生塩谷晃司選手が初V

群馬岳連総務委員長 女屋 等 志

本県が生んだ登山家、山田昇、三枝照雄両氏の業績を後世に伝え、登山の基礎である体力を競い合って、登山の普及や発展を推し進めようとする、第二十回山田昇記念杯登山競争大会が、平成二十一年九月二十七日(日)、武尊山(二五八メートル)で開催しました。出場人数は、山田昇記念杯の部九十名、三枝照雄賞の部五十名、競争を行わない一般参加の部二十名、合計百六十名でした。完走者は、山田昇杯の部では八十一名、三枝賞の部では三十七名でした。

山田杯は、望月将悟選手(静岡県・静岡消防)が一時間五十七分四十二秒の大会新記録を達成し二年連続三回目の優勝を果たしました。三枝照雄賞(十九歳未満)は、塩谷晃司選手(高崎市立群馬南中学校三年)が、中学生の参加は初めてであり初優勝の栄冠をつかみました。

また、山田杯の部男子三十六歳以上五十五歳以下は吉田浩久選手(栃木県宇都宮市)、同五十六歳以上は粕川嘉久治選手(桐生市)が三連覇、同女子の部は加藤揚子選手(渋川市・沼田山岳会)が初優勝しました。残念なことに、三枝賞女子の部の出場はありませんでした。

今大会は、山田杯の部記録保持者の望月将悟選手が二時間の壁を破るかという期待が高まる中、開会式直後から小雨が降り始めてコースコンディションが心配されましたが、見事達成いたしました。また、コース序盤で蜂に刺された選手がかなりおり、大事に至りませんでした。今後の大会運営に蜂対策を検討する必要があると感じました。



男子 36 ～ 55 歳の部



男子 35 歳以下の部



山田杯返還

第20回 山田昇記念杯登山競争大会記録

山 田 昇 杯 の 部

◆男子35歳以下の部

1	望月 将悟	静岡消防	1°57'42"
2	栗原 孝浩	相馬原自衛隊	2°19'42"
3	池田 幸男	林ニット	2°20'46"
4	荒 井 健	東京都世田谷区	2°25'11"
5	高橋 博征	長野県長野市	2°49'05"
6	澤井 京太	山岳同人チーム84	2°51'32"
7	河野 克昭	アングルベアー	3°06'09"
8	津吹 浩平	加蘇陸上クラブ	3°13'22"
9	一倉 孝介	龍鳳登高会	3°15'14"
10	江原 大悟	マカロニクラブ	3°25'50"
11	島崎 智洋	山系ENJOY	3°26'21"
12	佐々木直人	スーパードライ	3°27'14"
13	小松 涼	チームめぐる	3°36'23"
14	石塚 宏幸	岩猿峠	3°37'00"
15	澤田 裕史	前橋市	3°44'22"
16	土樋 三起	チームめぐる	3°51'52"
17	中澤 雅幸	新潟大学	3°54'33"
18	佐藤 隆三	スーパードライ	4°02'25"
19	南雲 清光	前橋市	4°03'59"
20	高澤 太陽	前橋市	4°04'30"
21	三浦 達也	長野県長野市	4°05'12"
22	藤崎 高宏	宇都宮大学	4°07'30"
23	米田 善紀	信越化学工業	4°38'00"
24	村田 貴朗	東京都荒川区	4°44'56"

◆男子36～55歳の部

1	吉田 浩久	栃木県宇都宮市	2°13'39"
2	割田 靖	高崎市	2°23'49"
3	吉田 尚紀	境町山の会	2°34'36"
4	吉田健太郎	佐川急便	2°38'24"

5	細 谷 肇	産業技術センター	2°55'09"
6	長谷川民男	前橋市	2°58'59"
7	金澤 浩史	太田山岳会	2°59'10"
8	桜井 順児	アンティロープ	3°00'55"
9	片桐 睦浩	桐生市	3°16'48"
10	若本 雅史	茨城県古河市	3°24'34"
11	斎藤 文生	79歩好会	3°24'49"
12	成瀬 康也	栃木県宇都宮市	3°42'00"
13	大堀 努	高崎市	3°42'12"
14	井上 由史	チームめぐる	3°45'43"
15	田村 将夫	越生七福神	3°48'46"
16	西巻 信義	沼田山岳会	3°49'22"
17	高橋 昇司	長野県長野市	3°51'20"
18	小林 伸吾	東京都練馬区	3°56'05"
19	郡 純一	ジューシーRC	3°58'10"
20	増田 浩之	高崎市	3°59'08"
21	佐藤 浩	チームめぐる	4°02'11"
22	内田 広昭	岩舟FRC	4°04'15"
23	落合 雅彦	佐野走友会	4°04'20"
24	加 藤 進	佐波郡玉村町	4°08'43"
25	新井 孝幸	チームぬ～ぼ～	4°11'39"
26	橋本 昌美	新潟県加茂市	4°16'13"
27	渡辺 浩市	小山山岳会	4°23'29"
28	大塚 浩一	佐野トレランC	4°23'31"
29	進藤 雅文	太田山岳会	4°33'34"
30	正田 和則	太田市	4°46'29"
31	清水 誠一	みどり市水道局	4°48'15"
32	横田 徹	国立西群馬病院	4°49'22"

◆男子56歳以上の部

1	粕川嘉久治	桐生市	2°41'06"
---	-------	-----	----------



三枝賞の部



女子の部



男子 56 歳以上の部

2	藤原 利雄	チーム・めぐる	2°57'09"
3	唐沢 三夫	沼田市	3°05'50"
4	渡辺 孝	北群馬郡榛東村	3°07'42"
5	山田 豊	沼田山岳会	3°13'17"
6	廣瀬 昭憲	県立高崎工業高校	3°23'18"
7	熊澤 清明	東京都品川区	3°26'06"
8	阿部 源	群馬ミヤマ山岳会	3°36'16"
9	中澤 安信	伊勢崎山岳会	3°39'20"
10	相場 憲治	岩舟FRC	3°46'17"
11	齋藤 長作	松井田山岳会	3°46'31"
12	井上 土史	チーム・めぐる	3°58'24"
13	山下 富也	桐生走ろう会	4°08'39"
14	深田 和夫	山里ランナーズ	4°25'15"

15	由利 正助	高崎市	4°30'14"
16	西澤 明夫	石神井サンデーズ	4°44'55"

◆女子の部

1	加藤 揚子	沼田山岳会	2°38'57"
2	星野 緑	星野農園	2°39'23"
3	坂井 陽子	長野県上田市	3°06'07"
4	平林 尚子	富山県中新川郡	3°12'35"
5	佐藤祐紀子	チーム・めぐる	3°21'04"
6	成瀬 美希	栃木県宇都宮市	3°28'51"
7	大日方仁美	長野県長野市	3°54'03"
8	石井 広海	高崎市	4°14'16"
9	田川 智晴	前橋市	4°39'41"

三 枝 照 雄 賞 の 部

◆男子の部

1	塩谷 晃司	高崎市立群馬南中学校	2°38'26"
2	岡田 陽介	高崎高校	2°39'13"
3	高橋 文也	高崎工業高校	3°06'14"
4	堤 孔盟	沼田高校	3°20'45"
5	浜名 俊明	高崎工業高校	3°11'28"
6	長井 巧	高崎工業高校	3°25'51"
7	齋藤 知	前橋高校	3°26'51"
8	岩崎 一輝	高崎高校	3°42'51"
9	近藤 雄太	前橋高校	3°48'51"
10	北村 啓祐	富岡実業高校	3°49'14"
11	木村 朋樹	新島学園高校	4°01'39"
12	深沢 悠	新島学園高校	4°02'27"
13	宮川 堯大	前橋高校	4°03'07"
14	水 澤 翔	前橋高校	4°03'08"
15	松田 裕行	榛名高校	4°04'16"
16	清 水 優	新島学園高校	4°12'27"
17	中嶋 大智	高崎工業高校	4°14'10"
18	日下部祐貴	前橋高校	4°22'21"

19	角田 皇祐	沼田高校	4°25'47"
20	綱島 稜	前橋高校	4°26'40"
21	松澤 卓也	前橋高校	4°27'45"
22	小野 純	沼田高校	4°28'41"
23	小野 健輔	前橋高校	4°35'23"
24	鳩貝 拓矢	前橋高校	4°35'31"
25	田中 隆太	前橋高校	4°36'20"
26	石原 庸平	高崎高校	4°36'28"
27	古屋 裕康	前橋高校	4°36'59"
28	染谷祐太郎	前橋高校	4°41'11"
29	鶴淵 健太	沼田高校	4°48'17"
30	細井 彩人	伊勢崎清明高校	4°48'22"
31	新井 雅大	伊勢崎清明高校	4°48'23"
32	齊木 大地	沼田高校	4°49'35"
33	金子 将大	前橋高校	4°52'05"
34	茂木 聖	前橋高校	4°52'10"
35	二宮 正樹	前橋高校	4°52'14"
36	宮前 俊克	伊勢崎清明高校	4°53'31"
37	松浦 佳宏	富岡実業高校	4°58'13"

(表中の °' " は、時間・分・秒を表す)

群馬岳連

クライミング講習会

指導委員会副委員長 星 野 俊 充

(境町山の会)

はじめに

指導委員会が新体制になった今年、講習会の形態を今迄と変えて行うこととした。

年数回、時期に応じた講習会を企画していたが、ここ数年参加者の減少が著しく開催の必要性すら疑う状況となっている。岳連加盟団体の構成員の状況を考えると仕方がないことかとも思われるが、嘆いていても始まらない。

そこで、一年を通じて一つの課題を設け、年数回レベルアップを目指して行く形態をとることとし、初年度の今年は、「クラック・クライミング」に特化した講習会を企画した。

(個人的ではあるがボルトを辿って行くグレンデのフェースクライミングに少し疑問を感じ始めた一昨年、湯川の岩場で初めてクラック・クライミングを体験し、終了点の先に新しい世界があるよ

うに思え、是非ともやってみたい企画だった。)

ロッククライミング講習会第一回

(六月七日)参加者十五名

課題一 手指の保護(テーピング)

二 各種ジャミングの方法

三 トップロープによるクライミングの実践

といった何名が参加してくれ

るだろうかという不安を他所に、十五名もの参加者があり、幸先の良い滑り出しとなった。講師に原口慎太郎君(大田山岳会)を迎え、新体制での講習会が幕を開いた。

最初にテーピング方法を指導していた。日頃使わない手の甲が岩面に当たるだけに、しっかりと保護しないと苦痛を味わうだけになってしまうので参加者に真剣な表情が伺えた。

次に手、足のジャミング方法を指導していただく。



大体のジャミング方法を確認した後、トップロープを使います(はデゲンナー(グレード5.0)から登ってもらう。殆どの参加者がフェースクライミングを経験しているの、思いのほか簡単に登っ

てしまう。北風小僧(5.0)、台湾坊主(5.0)にもトップロープを準備してあったので順次、次のルートへ進んでもらう。最終的には殆どの参加者が全てのルートを登ってしまった。

第一回目の内容としては、痛みの大小は有れども参加者に満足していただけた内容になったと思われる。

ロッククライミング講習会第二回

(七月二日)参加者十四名

課題一 第一回目の復習

二 トップロープによるクライミングの実践(上位課題)

三 トップロープによる疑似リードでのカムデバイスセット

第一回目に引き続き講師に原口慎太郎君(大田山岳会)、また補助に松本浩君(境町山の会)を依頼する。前回とはほぼ同じメンバーが参加していたので、企画側の思いが伝わっているようで一安心する。

前回で2回目に予定したルートを登ってしまったので新たにフォーサイト(5.10b)にトップロープを準備してもらった。

登ることのみに集中してしまい、第二回目の課題としたカムデバイスのセットはあまり行われなかった。

ロッククライミング講習会第三回

(十一月八日)参加者十七名

課題一 トップロープによるクライミングの実践(上位課題)

二 トップロープによる疑似リードでのカムデバイスセット

三 リードクライミングの実践

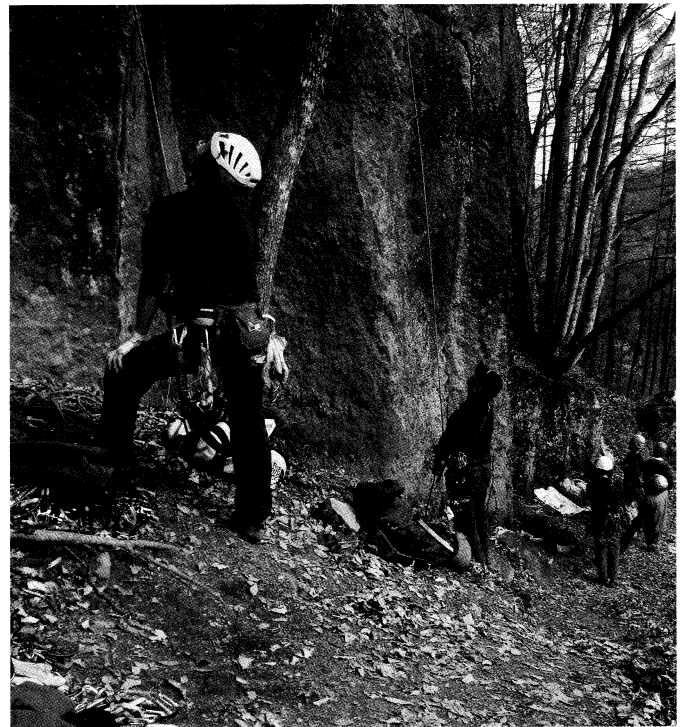
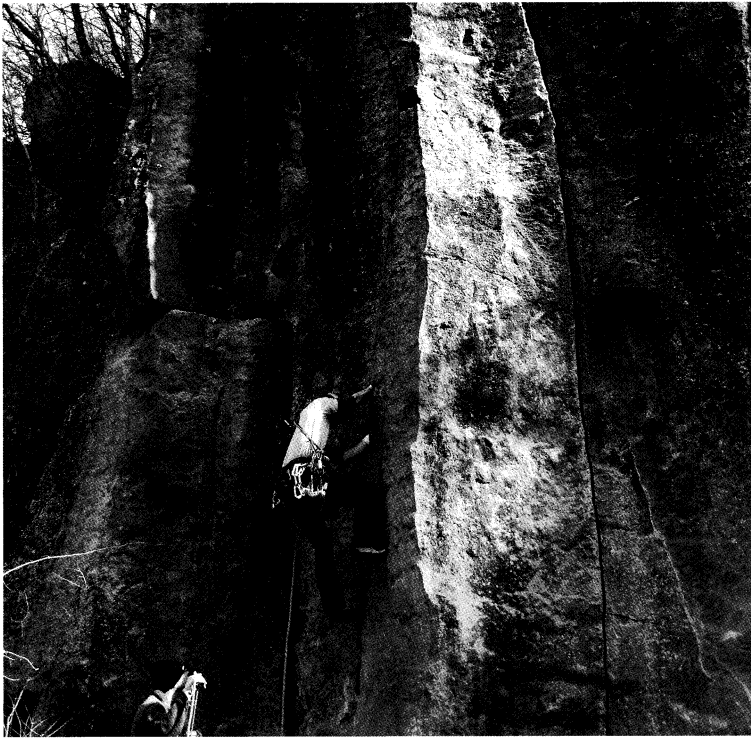
最終回となる第三回目で参加者が最多となるのは主催者側として非常に嬉しい。今回は前回使用ルート他に、コークスクリュー(G9)、サイコキネシス(G10C)過去最高グレードとなるテレパシー(G10C)にトップロープを準備する。天気も良くクライミング日和であったが、さすがにこのグレードになると登れるメンバーも限られた様子だった。

余談ではあるが、クラックの手の届くところにコウモリの巣があり、ここを通過するのに大分手間取った？様子が伺えた。岩の隙間からカメムシ、蛇、トカゲ、はち、イタチが出てきたことが有ったが、新たにコウモリが加わった。

おわりに

全体を振り返ってみると参加人数の多さから「興味ある内容」であったと思う。

しかし残念なことにフェースクライミングと比べ、クラック・ク



持って、今後クラック・クライミングに取組み、新たな世界を切り開いていただきたいと思う。

「今までやったことがない」、「やりたかったが分からない」、「面白そう」。そんな気持ちで参加していただき、「新しい感動」、「新鮮な感覚」、「新たな方向性」などを感じ取っていただけていたならば、企画側としてはうれしい限りです。

最後に、忙しい中、自分の山行時間を割いて講師として活躍していただいた原口君、松本君にお礼申し上げます。



50th Anniversary
JMA

守ります。美しい日本の山。

あなたの保険は、 安心して登山ができる保険ですか。

自分だけは安全、と思いがちですが、
年間遭難者数は約2,000人です。

■平成20年 山岳遭難の概況

(警察庁生活安全局地域課 平成21年7月3日)

発生件数 **1,631** 件

遭難者数 **1,933** 人

死者・行方不明者 **281** 人

詳しくは → www.jma-sangaku.org

お問い合わせは

日本山岳協会 山岳共済会

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター
月～金 10:00～17:00 (土・日・祝日除く)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL: 03-5958-3396 FAX: 03-5958-3397

E-mail: sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

四泊五日の行程だった。中学生と残留高校生対象の合宿だったが、家にいても親の小言ばかりで、他に何もすることがなかったのだ。それまでに宿題はすべて終わりにしてあったので、親も南アルプス行きを渋々承諾してくれた。

高校生で参加したのは私と新入部員のメガネだけだったので、自ずとリーダー的な役回りとなり、ザック重量も二十五kg超になってしまった。しかし、中一がいたのでペースがゆつくりで、体力的にはとても楽だった。大学生のパーティーと抜きつ抜かれつで歩いたり、幕営地の先陣争いをしたのも面白かった。また、農鳥小屋のおじさんが怖かったが、率直さに慣れたら実はいい人だとわかった。

この山行は好天にも恵まれ、高山の荒涼とした風景に心が弾んだ。夏休みの最後にとっても充実した合宿となった。来てよかったと思った。南アルプスは山体が大きく、どっしりしており、北アルプスとはまた違う味わいがあった。今度は、塩見岳や赤石岳にも是非登ってみたい。

今回の一ヶ月以上におよぶ山三昧の生活で、体力、技術、知識が格段にアップしたと実感できる。

親からは「山には当分行くな」と言われているが、正直なところ、制止を振り切つてでも行つてしまいたいような気がする。要するにひまなのだと思う。

私は写真部にも所属しているが、登山との両立は実に難しい。時間に追われがちな登山と、待ちが基本の写真とは相容れないところがあるからだ。しばらくは山を中心にした生活が続くような気がする。今は、トレーニングや山行がとても楽しい。

来年は高校二年生になる。来年の夏はどんな山に登れるのだろうか。期待しながらじっくりと力を蓄えていきたいと思う。

インターハイに参加して

高崎女子高等学校

三年 日比野 由佳

二回目のインターハイ。今年もあつという間に終わってしまった。結果は八位ということでかなり悔いの残る結果になってしまった。

インターハイ前の準備は主に歩荷、計画書作成、テント設営練習をした。減点を最小限に抑えないと入賞するためには厳しくなることを昨年学んだので、「満点をねらえるところはすべて満点をとる!」そんな風に意気込んでいた。歩荷

は県総体前よりも負荷をかけた。設営練習はペグが打ちづらそうな悪条件の場所で練習した。また、炊事審査に備えて実際にメニューを作ってみたりもした。ペーパーテスト、天気図作成は過去問を見て傾向をつかむようにした。あとは各自の努力に任せた。読図に関しては下見に行けないのでみんなで地図と予報を照らし合わせながらどんな地形かを確認した。

また、今年は昨年に比べるとザレ場、ガレ場の多いコースなので足慣らしのために小浅間山に登ったり、急登に対応できるように水沢山に登った。

昨年と同じように行動したつもりだったが、実際に大会が始まると色々なミスをしてしまった。テスト関係ではもう少し点が欲しかった。炊事審査のときは不注意から



か、ガス台にのせようとした鍋を落としてしまい米を少しこぼしてしまいました。しかも審査員の目の前だったのでかなりショックだった。読図は悩んだ一か所を落とした。

テストと読図地図、提出した計画書が返却されたとき、予想以上に減点が多かった。計画書は昨年減点されたので今年は絶対満点をとるつもりだった。もつと計画書に目を通すべきだった。なかなか計画書で満点が取れない。インターハイで見られる計画書の細かさについていけないのか。詰めが甘かったのか。

全ての返却物が返ってきた時点で減点は二、四点。入賞は厳しいかなと思い始めていた。閉会式で名前が呼ばれなかったとき、悔しい半面やつぱりな...と思った。その時はもうしょうがない、ミスが多かったからだと自分に言い聞かせていた。成績表が返されて見てみると高女は八位。入賞まで〇、四点という結果がそこには書かれていた。〇、四点。もし〇〇ができていたら...。そんな後悔が頭を駆けめぐった。後悔の残る大会にはしたくない。そう意気込んで臨んだ最後の大会は、結果が残せなかった分後悔ばかり残る大会と

なった。

今年の反省点は、ペーパーテストの勉強は細かいところまでしっかり覚える。行動中は読図地点を確認できるように意識する。炊事審査なども落ち着いて声を掛け合つてする。計画書は各自が細かいところまでチェックをするのを忘れない。など、基本的なことばかりだ。今回の反省点は県総体やインターハイに繋がるので、ぜひ来年に生かしてほしい。

もちろん、昨年より改善できた点もあったのは事実だ。記録書は事前に書くことをまとめておいたおかげで時間がなくても焦らず書けた。読図も下見に行つてない割にはよく出来た方かもしれない。反省の方が多いのは確かだが、自分たちができることはやった。

今年のインターハイはこんな形で終わってしまったが、今の二年生にはまた来年県総体で優勝してインターハイに出場してほしい。上位校の点差は僅差で、もはや運なような気がする。今年の反省点を来年がある二年生に生かしていつてもらいたい。

そして最後に、インターハイ出場まで応援し、支えてくれた全ての人に感謝したい。

橋本 勝さんの写真集

「谷川岳」 発行

群馬岳連副会長 八木原園明

我々群馬に生まれ育ち、山の世界に足を踏み入れ、谷川を中心に登ってきた者にとって、この山、

谷川岳は特別な思い入れがあります。谷川岳の写真集は数多く出されているが、また1冊立派なものが出版された。見覚えのある四季の景色が写真家特有の切り取り方で表現されていて、見惚れるばかりである。

一の倉沢の岩場を登攀するクライマーが撮し込まれているのがまたうれしい。我々クライマー(元?)にとってはいくら美しくともやはり景色だけよりは良いものだ。

桜には少し早い3月初め、岳連加盟団体日本山岳写真協会両毛支部前支部長であり、日本山岳写真協会副会長の橋本勝さんの写真集「谷川岳」の出版祝賀会が東京であった。私自身は写真展会場には行けず残念であったが、祝賀会場には顔見知りの写真家、登山家がたくさん列席しておられ楽しい一

時であった。群馬から多くの知人が参加しており、これもうれしいことであった。

発起人代表は東京雲稜会の先輩であり、会長の衝立岩初登攀者の南博人さん。南さんは今も山登りやスキーに精を出しておられるが、圧しも圧されぬ立派な画伯で



ホテルはあといん乃木坂

もある。氏の挨拶はいつも軽妙であるが、とても辛口でもある。その南さんがさまざまな橋本さんとの山登りや、撮影行のエピソードを話される中で誉めるのである。画家としての目もありである。それだけ橋本さんの写真を評価しているという証左でもあるが、たくさんモデルにもなっておられたという。納得した。

日本山岳写真協会長の羽田栄治さんは挨拶の中で「魔の山なんて誰が言う 味わい深し谷川岳」を引用された。会員の皆さんは覚えていきますか？そうです、西暦



富士フィルムフォトサロン東京

2000年、平成12年の日本山岳協会の第39回全日本登山体育大会、谷川岳大会の実施要項に使われたスローガンです。作者は小林達也副理事長でした。これもうれしい出来事でした。

開閉会式に飾られた昔の土合駅の枕木のホーム、駅舎や鳩小屋、マチガ沢出合いのテント村など懐かしい写真は羽田さん撮影のものでしたし、羽田さん経由で昭和32年の岩波映画の「遭難」の映画もお借り出来たものでしたから、良く覚えていてくださったものと思います。

前橋商工会議所会頭の曾我孝之さんも祝辞を述べられたが、曾我さんは前高山岳部OB会員でもあります。

谷川岳は橋本さんの心をとりにした。マチガ沢、一の倉沢、幽ノ沢などの眼を睜らせる岩壁群はクライマーを魅了するが、そんな厳しい山岳の全ての表情は写真家の眼をとらえて離さない。釘付けにさせる。風雪の尾根も、新緑の山も、真つ青な空も、燃える岩壁も何もかもが。千変万化する谷川岳の自然が。

そんな橋本さんの撮影する姿を1度だけすぐそばで目撃したこと

がある。2001年の春、ネパールのポカラから夜明けのアンナプルナ連峰を撮ったときである。あまりくつきりとした朝焼けにはならなかったが、殆ど同じ場所、同じ時間に撮影しているにも拘わらず仕上がりが全く違うのである。もちろん腕前もカメラもセンスも全てが違うのは承知してはいる。それでもこれほどの違いが出るものか、と思い知らされたのであった。

橋本さんは昭和12年(1937)生まれの72歳。子供の頃から写真に親しまれたそうだが、東京雲稜会へ入会後は日本中の山に登り、37年に東京の羽田フォトクラブに入会して本格的に撮り始めたという。昭和47年(1972)の札幌オリエンピックを最後に事業(蔵前産業株式会社)に専念するためにプロ写真家を辞める。その後は事業のかたわら写真は撮り続け、写真集を出し、個展を開くなどの活動を続けてこられた。

今後ますますのご活躍で、更に厳しく、きれいな写真芸術をお見せ頂きたいと思う。奥様、これから支え続けて差し上げてくださ。い。「亭主の好きな赤烏帽子?」(大変失礼ながら)

第32回

県民登山大会報告

自然保護委員会 須田 久男

(桐生山岳会)

主催 群馬県山岳連盟

期日 平成21年10月25日(日)

会場 桐生市黒保根町 赤城山東

面

コース 花見方原森林公園キャン
プ場→黒檜山(二八二七、六m)

参加者人数 一般参加 七十九名

大会役員 四十一名

記録

受付開始(午前7時00分→7時30分)
↓開会式(7時30分→7時50分)
↓花見ヶ原森林公園キャンプ

場(8時10分)↓1k地点(8時40分)↓露岩トラバース(通称)(9時10分)↓2k地点(9時30分)↓ベ
ンチの有る休憩所(10時10分)↓3
k地点(10時20分)↓3.5k地点(10
時30分)↓黒檜大神(10時50分)↓
黒檜山山頂(10時55分着)↓休憩
(25分)↓山頂出発(11時20分)↓ベ
ンチの有る休憩所(11時40分)↓20
分休憩↓休憩所出発(午後12時00
分)↓2k地点(12時20分)↓1k
地点(12時40分)↓遊歩道分岐(12
時50分)↓花見ヶ原キャンプ場着
(13時00分)↓休憩、閉会式(13時
40分)↓解散(14時00分)

感想

朝六時三十分から準備、七時受
付、七時三十分五分の開会式で
第三十二回県民登山大会が総員
一二〇名で始まりました。この日
の天候は薄日が差す朝でした。花
見ヶ原公園周辺は赤や黄色に木々
が紅葉し清々しい朝でした。午前
八時十分には二班に分かれて出発
し、紅葉が美しい緩やかな登山道
を皆で話しながら登って行くと天
候がだんだん悪くなり、(通称)露
岩トラバースと呼ばれる辺りから
雨が降り始め気温もだんだん下
がってきました。それでも、雨具
を付け黒檜山山頂を目指して歩き

黒檜大神に十時五十分に着き、黒
檜山山頂に着いたのは十時五十五
分でした。しかし残念なことに山
頂は霧がかかり展望がきかず、た
だ寒いだけなので休憩もそこそこ
に下山を開始し、雨で濡れて滑り
易くなった登山道を慎重に下り、
途中の休憩も短時間に済まして下
山し、花見ヶ原公園には予定より
も三十分ほど早く午後一時に着き

ました。そこで、桐生山岳会OB
の方々が今回の為に大きな鍋で用
意してくれた猪鍋と温かいコー
ヒーを頂きながら少し遅い昼食を
とり、一時四十分には閉会式を行い
解散しました。最後に、岳連関係
者全員でお世話になった花見ヶ原
公園の炊事場とトイレを清掃し、
県民登山大会を終了しました。

平成21年度競技委員会
ブロック別研修会

(関東地区) 報告

群馬岳連競技委員会 松田 龍彦

21年度競技委員会ブロック別研
修会が平成22年1月30日(土)→
31日(日)、県北毛青年の家で開催
された。今年は群馬が国体関東ブ
ロック開催県を担当するため、運
営役員と審判員の認定者が大幅に
必要のため、県内行事の多い中、
各山岳会会員に無理をお願いし研
修に参加していただいた。参加さ
れた皆様にお礼を申し上げます。
参加者は、C級審判員認定20名、
運営研修9名、運営認定研修31名
参加者合計60名と、日山協競技委

員講師に高山、太田、山本講師、
新潟山岳協会森理事長が参加され
た。C級審判員認定は山本講師担
当、年々世界大会に出場する選手
が多くなり、それにつられて競技
レベルが上がり、ジャッジの役割
がより重要視され正確さが要求さ
れるようになった。研修ではパ
ワーポイントによるジャッジの細
かな説明、現在の競技、ジャッジ
の流れ、傾向が、細かに説明され、
翌日認定試験が実施された。競技
運営認定研修は、今年の関東ブ

「山の文化 in Gunma」報告

二〇〇九年十一月二十九日(日)

群馬岳連副会長 八木原 罔明

会場 ベイシア文化ホール (群馬県民会館)

共催 群馬県山岳連盟・日本山岳文化学会・日本ヒマラヤ協会

ロック大会を運営するには競技運営資格が必要となり、現状群馬の運営資格者が少なくまた高齢化のためと、競技種目の変更により新たな資格取得者が必要となり、19名が認定研修を受講した。1日は運営研修者と合同で新潟国体

の映像を視聴し、国体の流れと競技内容を確認した。翌日は太田講師による認定規則集講読と解説が行われた。運営研修1日目は認定研修と合同で高山講師による映像と新潟国体報告資料による解説が行われた。特に、中学生の参加者

が高校生に交じり大いに健闘したこと、義務づけられたユニホーム着用問題、少男リード競技でのクリップ飛ばしの問題、成男ボルダリング競技でのテクニカルインシデント発生、更に今後の競技運営では特に成年男子の場合にローテ

ンシヨントームを設けその時間に選手を入れるようなことも指摘された。トレーナーの帯同、その他、規則集改定に必要な問題も検討され、また、翌日は千葉国体からの変更点と確認事項が話し合われた他、選手登録締切日、ボルダリン

グ競技成年男子予選の競技時間の5分から6分への変更、競技日程の変更、競技終了通告変更、その他重要な事項がかなり提起されて、各県に持ち帰り監督選手への伝達が重要となる運営研修であった。

第4回地方講演会として標記の講演会が前橋で開催され、多くの岳連関係者、登山関係者が参加し盛況のうちに終わることが出来た。長野、山梨、静岡に次いでのものであった。開催県独自の講師、演題を選び特色を出しており、群馬ではどなたに講師をお願いするかに悩んだが、小林二三雄さんと田中壮信さんをお願いすることにした。

会副会長、日本ヒマラヤ協会顧問の山森欣一さんに人選をお願いし、山岳文化学会常務理事で元象庁山岳部の城所邦夫さんには「山の雷と遭難事故」を、私共群馬岳連のサガルマータ冬期南西壁登山隊登頂者でもあった現在、日本を代表するヒマラヤニスト・田辺治さんには「冬のヒマラヤ巨大岩壁への挑戦」の記録を話して頂くことになった。

年の登山隊長を務められた小林二三雄元岳連副会長に「妙義の清蔵」こと根本清蔵が明治時代に妙義山や浅間山、北アルプスを案内したW・WESTON(ウォルター・ウェストン)との話の中から、「特に群馬における2人の活動」をお話し頂き、現在は藤岡の老人保健施設「しらさぎの里」施設長の脳外科医田中壮信ドクターには数多いヒマラヤ登山経験を元に「高い山に登ると人の身体はど

他の講師については山岳文化学会

71年のダウラギリ4峰偵察、72

に「高い山に登ると人の身体はど



講師 小林二三雄氏



講師 田中壮信氏

のような影響を受けるか」と題してお話し頂くことになった。

当日は予約をオーバーする約70名の参加者となり、角田二三男岳連副会長の挨拶により開会。

根本清蔵はウェストンの槍ヶ岳登山にも同行しているが、有名な上條嘉門次の名前だけが付され、「清蔵」の名前が出ていない写真

が何枚も登山史を代表するシーンとして紹介されていることに口惜しい思いをしていたが、小林二三雄さんの研究が本にまとめられて近々出版されるとのこと、楽しみにしている。

山森さんが昭和37年8月1日付けの朝日新聞の松方三郎の「山ときどき」を紹介してくれたが、そ

の中の清蔵についてのエピソードは松方三郎エッセー集「アルプスと人」（築地書館刊）に松方さんが直接ウェストンから聞いた話として「ウェストン翁について」の中で『妙義の根本正三』が日本の山の案内人の純真さ、として出ている。そのうちのひとつとして、横浜の劇場・ゲーエティ座で汗をかつて講演をしているウェストンを見て、通路を四ツんばいになって演壇の下へ来て、扇子で下からあおいだというものである。

根本清蔵はチベットの2度入り、2度目は6年間もラサに滞在し「チベットの陸軍大将」「ダライ・ラマの親衛隊長」であった矢島保治郎とともに同じ群馬県人として群馬県民にもっとも知って欲しい人物である。

城所さんは雷の予測方法、避雷対策について、田中ドクターはスライドを使い、グラフや写真で分かり易く71年のマナスルから群馬のダウラギリ4峰、エベレストそして境町山の会の後藤文明のガッシャブルム1峰での事例から高所の怖さを解説し、当事者の後藤、田辺両隊員から救出からハビリまで生々しい実体験が報告された。

午後の部は徳久球雄山岳文化学



約170名の参加者

て行きたい。

地方講演会時には視察会も兼ねるようになり、昨年の静岡ではピッケル、特にウッドシャフトピッケルの研究、蒐集家の諏訪部豊さんの「小さな道具館」（山と溪谷900号、P. 78（参照））を訪問しピッケル、アイゼン、ストーブのコレクションを見学した。今回は前日に10余名が「群馬の山岳資料館トライアングル」の山田昇ヒマラヤ資料館、みなかみ町山岳資料館、最後に土合の谷川岳山岳資料館を視察し宿泊、懇親会を行った。

日本山岳文化学会は「山を多角的な文化面から大いに、研究、振興して後世の人たちへ文化遺産として伝承したい」、「学術研究の向上を図ることを主たる目的とする団体」として、2003年3月に設立。年1回の研究発表大会を開催し10余の分科会がある。08年5月には日本学術会議の協力学術研究団体の指定を受けた。入会をお勧めします。資料請求と申込先は

〒300-2337 つくばみらい市谷井田1389-5

酒井國光方

日本山岳文化学会・事務局

《加盟団体紹介》

日本山岳写真協会両毛支部

日本山岳写真協会 副会長

橋 本 勝

日本山岳写真協会の歴史は古く、昭和14年（1939年）、東京山岳写真会として発足、昭和23年（1948年）に「日本山岳写真協会」（JAPA）と名称を改め、今日まで70余年の足跡を残してきました。山岳写真を主体とした山岳写真作家の集団で、山岳写真の持つ映像芸術向上に寄与することを目的としています。山岳写真界の第一線で活躍するプロをはじめ、地元に着目して美しい大自然の息吹を切り取るために山行を重ねる会員等、さまざまな作家が集まった集団です。

展をはじめ、本部写真展や他支部写真展等で積極的に作品を発表しています。

現地、現場に立たなければ写真にはなりません。写真の本質です。そのため、多くの会員は日頃から山行に慣れ親しんでいます。きつと、各地の山岳連盟の方々とは違っていることも多かろうと思います。

写真の醍醐味の一つは光の変化を捉えることです。漆黒から紺青へと刻一刻と変化する夜明け前の光が演出する山の表情をいかに切り取るか。この一瞬をカメラに収めるために、写真家は前夜から撮影ポイントにビバークすることもしばしばあります。重い器材を背負い、黙々と山に登る。写真家は健気なものです。冬山の厳しさはすでにご承知のことと思いますが、山岳写真家も、時には完全装備で冬山に挑戦します。そこで捉えた

山容は、作家にとって非常に大事な一枚となりますが、多くの場合、狙った通りの映像にはならず、悔し涙を流すことばかりです。苦勞多くしても報われず。写真家の宿命ですが、お陰で山登りで鍛えた体も精神力も強靱なものになってしまします。

両毛支部では、年に一回、撮影会を行っています。例えば、谷川岳の山小屋に会員が集合したり、中禅寺湖畔に集まったりして写真技術向上と親睦を図っています。朝一番が写真家にとって貴重な時間帯ですので、折角、久し振りに顔を合わせても、深酒、



夜更かしはしない。さつさと寢床に入って、早起きに努める会員も多い。親しい間柄だからこそ、心置きなく自由奔放を楽しめるのでしょう。

両毛支部では、群馬と栃木と毎年交互に写真展を開催しています。機会がありましたら、是非、ご来場頂き、忌憚のないご意見を賜れば幸いです。

《連絡先》 日本山岳写真協会両毛支部 代表 橋本勝
〒379-2153 前橋市上大島町176-44

蔵前産業(株)内

電話 027-261-3552

味のりんど

アンナプルナりんど園

沼田市上久屋町 1231 TEL・FAX 0278-23-6802

<http://annapurna.jp>

Annapura

総合建設業 空調・衛生・消防設備工事

石原工業株式会社

本社 浜川市有馬 164
☎ (0279) 24-7111(代)

工事部 浜川市赤城町北上野 203
☎ (0279) 56-8111(代)

電話、弱電工事

プモリ電設

〒 379-2223
伊勢崎市小泉町 252
☎ 0270-62-2012



(有) 山とスキーの店 石 井

DreamBOX

伊勢崎市宮子町 3448-2
TEL 0270-21-8025 FAX 0270-21-8026